日限山自治会報
日限山通信
令和４年 12 月３日特別号

TOPICS
- □高齢化の実情　＆　新しい住民の割合
- □地災害時に支援を必要とする人たち
- □対面で安否確認をすることの意味
- □どのようなグループや方法で見守りをすればよいか？

10 月 15 日自治会対面安否確認訓練を振り返って…

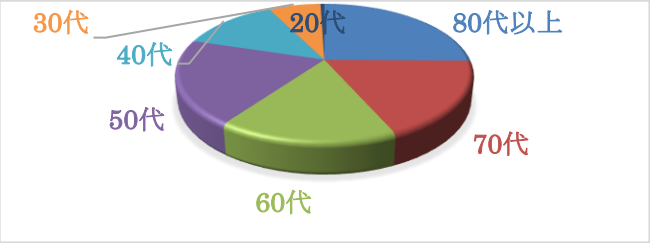
10月15日(土)に大地震を想定して日限山小学校地域防災拠点訓練を実施しました。地域防災拠点（指定避難錠）は、横浜市域で１箇所でも震度５強以上が観測された場合に開設されます。

日限山小学校地域防災拠点は、日限山自治会、近隣マンションの上永谷グランドメゾン自治会、サンヴェール日限山自治会、ロワレール日限山管理組合でその運営委員会を作っています。３年ぶりに今回は運営委員会として訓練が行われたわけです。日限山自治会としては、この２年コロナ禍で中止を余儀なくされた「対面での安否確認訓練」をこの日、３年ぶりに再開しました。

「安否確認訓練」について行った文書アンケートに 753 世帯が回答を寄せてくれました。

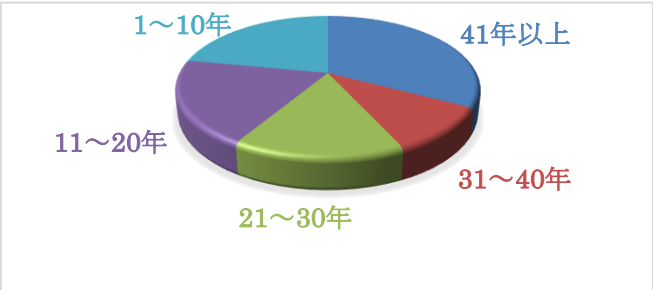
高齢化の実情…そして居住年数

回答者を年齢別でみると、グラフのようになります。70 代以上を合わせると 43.3%、50 代以下の 40.0%を上回る割合で、地域の高齢化の実情を歴然と示す結果となりました。



家族人数を見ると、一人暮らしが 12.8%、二人でお住いの世帯は 30.0%。この割合が直ちに独居の高齢者、あるいは高齢者夫婦だけの世帯が40%を超えるということではありませんが、その可能性は高いのではないでしょうか。

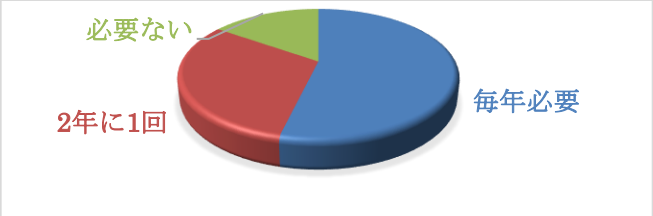
次に、居住年数を見てみましょう。この地に 31 年以上お住いの方が 44.1%を占めるのに対し、20 年以内の方が 39.7%に及びます。居住して 10 年以内の方たちが 21.1%を占めていて、新たにこの街の住民となった方たちが多いことがわかります。



災害時の要援護者はどれくらいいるか?

自力で避難できると答えた方は 77.4%いましたが、その一方で 15.1%の方が「支援が必要」と答えているのです。しかも、自力避難できると答えた方たちも「今は自力避難 OK だが先のことはわからない」「できれば声をかけてほしい」と答えています。

対面で安否確認をすることの意味は!?

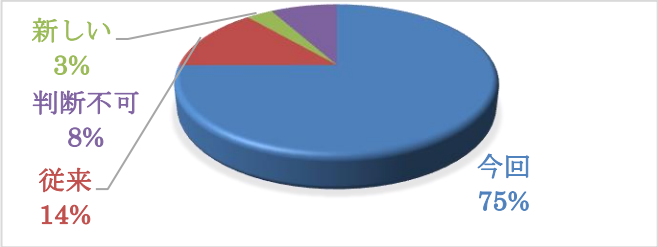


対面安否確認が「ご近所の方々の顔を見る機会が少なくなってきているので訓練がよい機会」という声の一方「LINE を使えば対面する必要はない」という声もありました。今回、LINE 安否確認を併用したことでそれを評価する人が多くいました。

対面の安否確認はあくまでも“きっかけづくり”であり、隣近所のつながりをつくり、日頃からの見守り、ささえあいの関係をもつことに意義がある、という見方をしている方がいらっしゃることを考えると「訓練」以外の意味がありそうです。

どういう安否確認のグループがよいか？

今回は自治会の班の回覧板グループをもとにしたグループ分けをしました。従来道路を挟んだ向かい合わせのグループで安否確認をしてきました。



「今回のグループでよい」が 75%あり、「従来のグループ」「新しいグループ」を合わせても 17%でしたが、以前はどのようにしていたかわからないという方が多かった(8.1%)のも事実です。

「従来のグループは顔見知りが多く、短時間で集まりやすかった。世帯数もちょうどよかった。」という声があったことは無視できません。

本紙発行人　兵藤　剛士　　編集者　齊藤 亮

今回の『日限山通信』の号外は、グラフをカラーで印刷しましたが、大容量インクプリンターを使用しました。